

都小国研 全体研究主題

未来を拓く国語教育の創造  
—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

書くこと部 研究主題

「児童の深い学びを目指す、主体的・対話的な書くことの単元づくり」

## 1 研究主題について

都小国研全体研究主題を受け、書くこと部の研究主題は「児童の深い学びを目指す、主体的・対話的な書くことの単元づくり」と設定した。

「主体的」とは、児童自らが「書いて伝えたい」「書いて表したい」という思いをもちながら取り組む姿であり、書く活動を通して得られる気付きや楽しさを、次の「書く機会」や実生活に生かそうとする姿である。「どのように書いたら相手に伝わるかな」「もっといい書き方はないかな」「このように書けば、よく伝わるんだ」と思考したり判断したりしながら学んで気付きを得ること、そして「自分の思いが相手に伝わってよかった」という実感をもつことが、さらに次の「主体的な学び」へ向かう力になると考えている。

「対話的」とは、児童が書く目的や相手のことを思いながら書く姿や、書くや書き手である自分自身と向き合う姿、書きたいことについて友達や教師と語り合う姿である。

これら「主体的・対話的」な学習活動が、生きて働く知識・技能を獲得したり、自分のものの見方・考え方が広がり深まったり、書く力の成長を振り返ったりすることのできる「深い学び」につながっていくと考えている。

## 2 研究内容

### (1) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

本単元では、伝えたいこと（自分の考えと、それを支える理由や事例との関係）を明確にしながら、相手に伝わるように書き表し方を工夫することができる力の育成をねらっている。一年間の学校生活で強く心に残った出来事や、それを基に考えたことを紹介するという言語活動を通して、書くために必要な知識や技能を高め、書く対象について及び自らの表現の仕方についての見方や考え方を広げたり深めたりしていくことによって、深い学びを目指す。

具体的には、インタビューや短冊、取材メモ、文例提示など様々な方法を用いて、書くための情報を集め、整理し、表現の工夫をすることができるようにする。また、友達との交流や相互評価、自己評価等を通して、互いの考えやよさを認め合うことにより、さらによりよい学びができるようにしていく。

### (2) 学びの質の向上を図る単元の工夫

#### ①単元の目標と単元を通して身に付けさせたい力を設定した意図

本単元で身に付けさせたい力は、「伝えたいことを明確にしながら、相手に伝わるように書き表し方を工夫することができる力」と設定した。

伝えたいことを明確にするためには、経験したことから多くの材料を集め、それらを比較・分

類し、選んでいくことが必要である。また、書き表し方を工夫するためには、文章の構成の仕方や、文章の中での言葉の使い方をより吟味していくことが必要となってくる。そうした活動に必要な支援を工夫するとともに、個に応じた適切な学習過程を児童と共に作ることによって、本単元で目指す力を育てることができると考えた。

#### ②主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善につながる工夫

○主体的な学びを促す学習環境の設定を工夫し、学びへの意欲をもてるようにする。

- ・「言葉の宝箱」の掲示。
- ・2年生の担任からの依頼文の提示と、作品を実際に活かす実の場の設定。

○見通しをもって学べるワークシートや文例の提示で、児童が学習過程を見通しながら、個に応じて学べるようにする

- ・ウェビングマップや短冊を用いるなど、学習過程で使うワークシート類の工夫。
- ・めあてに応じた文例の提示。

○個の学びを広げ、深める交流活動

- ・少人数のグループワークを取り入れることにより、互いに助言し合ったりよさを認め合ったりして、児童が学びを広げ深めていけるようにする。

### (3) 評価活動の工夫

#### ①「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を捉える評価の工夫

○評価シートの工夫（評価シート参照）

- ・毎時間のめあての中に、評価項目を明示することで、学習の成果を自己評価できるようにする。
- ・質問を入れて、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の評価をできるようにする。

○文例の提示

- ・B規準の文例を提示することで概ね満足できる文章（評価規準）がイメージできるようにする。
- ・B規準の文例とC基準の文例を提示することで、詳しく書く手立てが分かるようにする。

#### ②教師が指導の改善を図るための評価の工夫

○前単元での評価から、個別指導が必要な児童や、つまづきを予想し、手立てを用意する。

○個々の学習状況を把握し、必要に応じて次時まで個別指導ができるよう、十分に余裕をもった学習計画を立てる。

○座席表型評価簿の活用で、児童一人一人の状況を把握して指導・支援ができるようにしたり、学びの変容を見取ったりできるようにする。

#### ③児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

○学習計画と振り返りチェックシートを一体化することで、一目で単元全体の学習の見通しがもてるようにし、毎時間の振り返りの際にも、次時の活動を確認できるようにする。

## 3 研究経過

7月29日（金） 第1回部会（国分寺市立第五小学校・オンライン併用）

- ・研究主題について
- ・研究授業者決定
- ・研究授業内容検討

9月9日（金） 第2回部会（国分寺市立第五小学校・オンライン併用）：指導案検討

10月21日（金） 第3回部会（国分寺市立第五小学校・オンライン併用）：指導案検討

11月15日（火） 第4回部会（国分寺市立第五小学校・オンライン併用）：指導案検討

12月20日（火） 第5回部会（国分寺市立第五小学校・オンライン併用）：指導案検討

1月23日（月） 第6回部会（八王子市立由井第一小学校）

- ・研究授業、研究協議会（講師：都小国研顧問 成家亘宏先生）